人権平和資料館だより　2011．6

HUMAN RIGHTS ＆ PEACE 第 200 号

〒720-0061　福山市丸之内 1-1-1
TEL 924-6789　FAX 924-6850
http://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/

人権と平和は
21 世紀のキーワード

企画展　福山空襲と戦時下のくらし Part II

… 6 月 7 日(火) ～ 8 月 28 日(日) …

福山市人権平和資料館が開館して、今年で 17 年になります。この間、多くの皆様から、戦争や空襲に関わる貴重な資料の提供がありました。今回の企画展は、2007 年に実施した「福山空襲と戦時下のくらし」の PartⅡ として、前回使用した展示パネルを基に、これまで寄贈いただいた約 120 点余りの写真や現物資料を加え、これらを「出征」、「記章・記念品」、「戦地・所持品」、「戦時下の生活」に整理して、分かりやすく展示します。

展示パネルの内容

第 1 部：空襲の目標となった福山市街地

当時の福山市は、世帯数 13,671 戸、人口 58,745 人、の静かな城下町でした。この小さな都市が米軍の攻撃目標となったのは、どうしてでしょう。

米軍資料を見ると、米軍諜報情報部による都市爆撃順位は、福山：89 位、尾道：107 位、三原：129 位、倉敷：159 位となっています。空襲の目標となった理由の「市街地」・「軍事施設」・「軍需工場」を、当時の写真をもとに、パネル化しました。

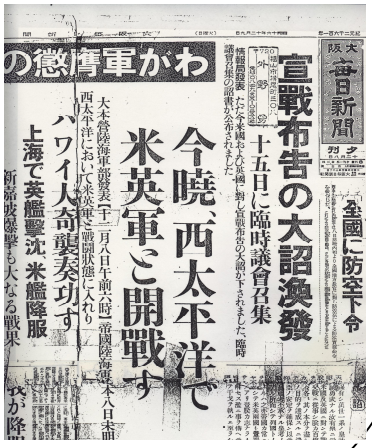
久留米戦車隊、福山駅に下車
（1927 年 9 月 25 日）

第2部：空襲の実相

1941 年(昭和 16 年) 12 月 9 日(火)、毎日新聞夕刊には、「今暁（こんぎょう）、西太平洋で米英軍と開戦す」・「宣戦布告の大詔煥発（たいしょうかんぱつ）」・「わが軍 膺懲（ようちょう）の火蓋（ひぶた）を切る」・「いざ“興亜の敵”撃滅だ！」などの見出しが躍っています。

それから 4 年、1945 年（昭和 20 年）3 月 10 日の東京大空襲に始まって、大阪大空襲（14 日）、米軍の沖縄本土上陸（4 月）と続き、日本の 200 余りの都市は、連日のように空襲を受け、ついに「ヒロシマ」・「ナガサキ」、そして終戦をむかえます。

福山は 8 月 8 日、午後 10 時 25 分から約 1 時間、B-29 爆撃機 91 機による空襲を受け、市街地の焼失は 314 ヘクタール（約 80%）焼失家屋数：10,179 戸、被災人口：47,326 人、死者：354 人という被害を受けます。この福山空襲の実相を、米軍資料から明らかにしていきます。


大阪 毎日新聞 夕刊
全國に防空下令
宣戰布告の大詔渙發
十五日に臨時議會召集
今曉、西太平洋で米英軍と開戰す
大本營陸海軍部發表（十二月八日午前六時）帝國陸海軍本八日未明西太平洋において米英軍と戰鬪狀態に入れり
ハワイ人奇襲奏功す
上海で英艦擊沈、米艦降服
新嘉坡爆擊も大なる戰果
わが軍膺懲

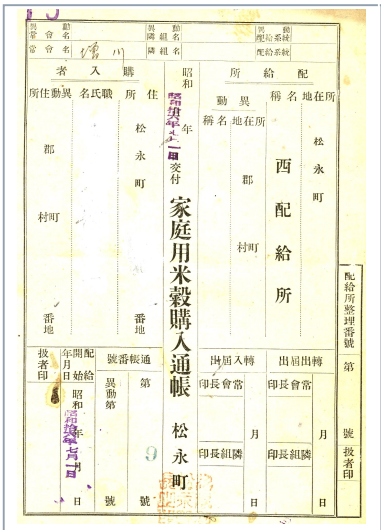
開戦を伝える夕刊

第３部：戦時下のくらし

戦争が始まると、すべてのものを戦争に動員する体制がとられ、戦争に役立つことが優先されました。

政府は、民間の工場を軍需工場へ転用し、労働力不足を補うために、学徒の勤労動員や未婚の女子を女子挺身隊に編成する「根こそぎ動員」により、軍需生産の強化を図りました。また、戦争遂行の財源を確保するための「貯蓄増強運動」、食料や衣類などの生活必需品を、家族の人数や年齢により割り当てる「配給制度」も始まり、国民生活を極度にきりつめることを求めました。

都市空襲が現実のものとなると、児童の学童集団疎開も始まりました。福山地方には、大阪市福島区から、３年生以上の児童約３千名が集団疎開しています。



家庭用米穀購入通帳

このコーナーでは、衣食住にわたる現物資料を含めて展示し、戦時下のくらしを紹介します。戦争末期の人々のくらしは、いまを生きる私たちには想像もできないほど、苦難・苦労の連続であったことが分かります。

第４部：平和への願い

福山市は、この戦争の悲惨な体験をふまえて、戦後の復興に立ち上がりました。1946 年（昭和 21 年）4 月「戦災復興土地区画整理事業」、1947 年(昭和 22 年）全国初の試みとして「復興博覧会」を開催し、市民に復興への意欲と平和の大切さを再認識させました。

また、市民の平和への強い願いを生かす活動として、1955 年(昭和 30 年)には、「原水爆禁止運動福山推進連盟」の結成、1972 年(昭和 47 年）福山市制五十五周年記念の事業として「福山市戦災死没者慰霊の像（母子三人像)」の建設、1984 年(昭和 59 年)「平和非核都市福山宣言」、そして現在も続けられている「平和アピール展」など、市民ぐるみで平和の取り組みを積み重ねてきています。

戦後 66 年、「人権と平和」を都市づくりの基本理念に位置づけてきた福山市の歩みを振り返ります。

復興博覧会（1947 年）

現在にも 生かしたい 空襲の教訓

「家財道具や大切なものは、郊外の親戚や知人の家に運んでいた」・「子どもは、親戚のところに預けていた」・「避難する経路や用水路を決めていた」・「ムシロを用意していて、それに水をかけて火を消した」など、市民は空襲のあることを予測し、事前に準備していた話を体験された多くの人から聞きました。

また、「避難場所の明王院では、朝（9 日）炊き出しのおにぎりを配っていた」、「避難場所に先生がきて点呼（子ども）を受けた」など、共助の体制ができていた話も聞きました。

空襲という壊滅的な状況にあっても、一般市民を始め、多くの関係団体が素早く救援に立ち上がり、人々は冷静に行動したことがわかります。この、多くの人々が持つ秩序正しい行動と支え合いの心は、今回の地震・津波に際しても様々な場所で見られ、私たちは、ずいぶん元気づけられました。